

**特定非営利活動法人
日本雲南聯誼協会**

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階
Tel. 03-5206-5260 Fax. 03-5206-5261
Email: yunnan@jyfa.org
URL: http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel. +86-871-3311468 Fax. +86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野恵蘭
印刷協力 深日経印刷 リテクノ評論社



彩雲の南

第26号

発行日 2008年(平成20年)7月30日

会報



茂頂小学校
児童数: 147名
(寄宿生 96名)
民族: チベット族
所在地: 雲南省迪慶
チベット族自治州徳
欽市羊拉鄉



梅里雪山の麓に咲いた笑顔 第17校目支援茂頂小学校 「日中友好望峰教学楼」開校式

2008年5月30日、雲南省北西部の迪慶チベット族自治州、茂頂小学校に新たな教室棟が誕生しました。協会支援第17校目にあたる「茂頂小学校」は、少数民族・チベット族の小学校で、現在約140名の児童が学んでいます。この小学校には既に2つの教室棟がありますが、今回会員の峰尾勝美さんのご寄付で新しい教室棟が建設され、今まで遠い分校に通っていた児童も、本校で他の児童と一緒に勉強できるようになりました。

恒例の「開校式ふれあいの旅」に日本側から参加したのは、会員・協力者と東京本部スタッフの18名。

開校式の朝、出発する前の天気は曇りがちで心配していましたが、小学校所在地域に入ると、そんなことが嘘のような晴れやかな青空が広がりました。茂頂小学校のある村は、シャングリラから車で6時間ほどのところにあり、徳欽県に属します。がたがたの道を3時間ほど翻られて小学校に着いたのは午後3時半頃、長旅でへとへとの一行を、村の前でおそろいのジャージと華やかな民族衣装を着たチベット族の子供たちと先生が、一生懸命手をたたいて迎えてくれました。



峰尾さんの挨拶は、この日のために勉強された中国語で行われました

してくださった佐藤さんは、校舎のための設備を寄贈してくださいました。佐藤さんのご挨拶でも、子供たちが明るい新校舎で、新しい机を使って頑張って勉強してほしいとの期待が込められていました。

開校式の翌日6月1日は中国の「子供の日」ということもあり、子供たちは一ヶ月前から準備を始めた民族ダンスを、学前クラスから順番に発表してくれました。そのかわいらしさに心が和み、またその真剣さには感激しました。また、村の大人たちもこの日のために仕事を休んで来校し、式の進行を見守っていました。



完成した日中友好望峰教学楼 この校舎の完成で、全児童が学習できる環境が整ったのです

と並んで、建物の前で児童たちが手紙を書いている様子。



踊りの後、日本側参加者の皆さんから、文房具、ボール、お菓子などの贈呈式がありました。たくさんのプレゼントをもらって、子どもたちの顔は喜びに輝いていました。

式典は18時過ぎに終了しましたが、その後日本の折り紙を寄宿生と村の子どもに教えてたり、じゃんけん大会をしたりして交流しました。子供たちは初めて見る日本の折り紙に興味津々。

眼を輝かせて、次々に折り上がる作品に見入っていました。

夕食後、参加者の方々が作った白玉だんごと炊いた日本の白米が振舞われました。これは、先生と子供たちに食べてもらいたいと参加者の皆さんのがはるばる日本から荷物の中に入れて大切に持ってきてくださいましたので、日本の味を現地の皆さんに分かってほしい、日本という国をもっと分かってほしいとの願いが込められています。ご馳走への感謝の印として、学校側も「たいまつパーティー」を開き、皆一緒に輪になって踊りました。踊りを通じて日本人とシャングリラの子供たちの心が通い合っていました。夜は、子供たちともっと触れ合いたいという皆さんの希望で、現在は使用していない校舎で一晩泊まることになりました。寝袋の中で皆さんが見た夢は、きっと子どもたちの笑顔の夢だったことでしょう。

翌朝、一行はこの地を離れなければなりませんでした。別れの挨拶に校庭に集まった子供たちのかわいい顔、きらきら輝く目、また一晩の交流から生じた親近感…皆さんは離れ難い想いで、胸がいっぱいになりました。

峰尾団長は校長先生から記念の旗が贈呈され、峰尾団長からもお礼の挨拶がありました。団長は感極まって涙ぐまれていました。生徒達がこの善意の贈り物、新しい校舎で一生懸命勉強し、そして思い切り楽しく遊んで成長してくれることが何よりの恩返しになることでしょう。

開校式では、支援者である峰尾さんと佐藤さんからのご挨拶がありました。峰尾さんは日本で一生懸命中国語を習い、当日のご挨拶も自ら中国語でされました。この心遣いに、現地の人たちも大喜び。30年前に抱いた、チベット高原に住んでいる子供たちに何かしてあげたいとの願いがこの日にやっと実現できたこと、新しい校舎が立派なチベット人になるための勉強場になつてほしいことなどを述べられました。

峰尾さんのご親友で、今回の学校支援に賛同

してくださった佐藤さんは、校舎のための設備を寄贈してくださいました。佐藤さんのご挨拶でも、子供たちが明るい新校舎で、新しい机を使って頑張って勉強してほしいとの期待が込められていました。

晴れ舞台で一生懸命舞いを披露する子供たち



【現地パートナー】
雲南省偽務弁公室、香格里拉縣偽務弁公室、德欽縣偽務弁公室、德欽縣教育局、他
【写真提供】掲載写真の一部は、旅行参加者で会員の安達武史さん、江角英之さんよりご提供いただきました。ありがとうございます！

】

わたしたちが
いってきました！



日本の皆さんへ
ありがとうございました

旅のミニ写真館



峰尾団長ご夫妻
河野さんと観察した
吉田小学校の先生
平田さん 学校へ行く
途中で子供たちと交際

佐藤さん、折り紙
頑張ってます！

虎跳峡にて
岩田さんご夫妻



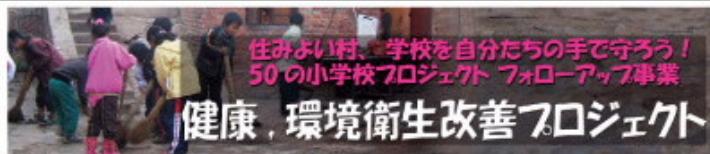
白水台



美しい玉龍雪山を
バックに



【開校式ふれあいの旅
参加者】
峰尾勝美、洋子、洞
本洋之介、佐藤福久、
安達武史、金田朋子、
新木元治、江角英之、
平田栄一、岩田毅、
岩田祥子、野見山博、
早出昭姫、上野正子、
東京本部、七田裕、
雲南支部、林郷、他
会員2名含む18名



プロジェクトの背景と経緯

当協会では、8年間に渡って学校建設とその後のフォローアップ事業を実施してまいりました。協会が支援する小学校のほとんどはアクセスが困難な僻地にあり、その厳しい環境とともに人々の意識、日常生活の慣習においても衛生上問題が多いという共通の課題があります。せっかく校舎を新しく作っても、トイレの使い方が非常に汚かたり、一歩学校の敷地の外に出た所では、家畜の糞尿で道路や排水溝が塞がれているなど、劣悪な衛生環境に置かれている現実があります。たびたび現地で目にするこのような状況に関しては、地元の政府からも改善したいとの声が上がっていますが、改善するためには現地で生活する一人ひとりの意識と行動を変えていく必要があります。

そこで、私たちは今回、小学校の環境衛生の改善と子供たちや先生、親、村人たちの健康と衛生に対する対処能力を向上させるため、新たに保健衛生プロジェクトを企画しました。このプロジェクトは、単なるハード面の資金援助ではありません。小学校を取り巻く子供たち、先生、親、村人がプロジェクトの主役となって、自発的に協力しながら住みよい環境を自ら作っていくことに重点を置いた事業です。

このプロジェクト策定に先立ち、昨年1月2月に基礎調査を実施しました。

今回は、協会にとって初めての保健衛生分野の活動となるため、JICA専門家派遣制度を利用し、公衆衛生専門家の薄田栄光さんとともに雲南省の各地を訪ねました。調査では、関係者の参加によるワークショップや、鍵となる人物・組織へのインタビューを通じて、学校保健と周辺の環境衛生に関する課題・ニーズの基礎情報収集のほか、可能な改善アプローチの提案や関係者の役割や関与のあり方なども検討されました。

調査実施後に薄田さんにより作成された100ページ以上のボルト報告提言書を元に、健康・環境衛生改善プロジェクトが立ち上げに向け、進行中です！



現地のNGOや政府関係組織と手を組み、協力しながらプロジェクトの効果を高めます
雲南エコネットワークにて



学校の先生、村委員会の人たちによる、ワークショップの様子
現地の生の声や想望が見えてきました 白雲小学校にて



第7校目果木小学校の給食を食べる子供たちの風景
食堂ではなく、外で地べたに座り犬と一緒に？手洗いもしません

主な活動内容と期待される成果

- この衛生改善プロジェクトは、『100万回の手洗いプロジェクト』という名の下、
 ①学校の先生・学校保健関係者の方を対象とした指導力向上のための研修
 ②学校トイレ施設改修（現在ある貯水施設の改善や手洗い場設置、学校トイレバイオガス化）
 ③小学校での保健衛生教育の授業を使った「ポスター・コンクール」、パネルシアーや歌による「手洗いキャンペーン」実施／高学年児童から低学年児童への「仲間教育」の導入
 ④学校と村を結ぶ上記コンクールや手洗いキャンペーンの実施
 ⑤プロジェクトで培った技術や資料を他地域のために生かせるような資源センターの構築

JICA(公衆衛生専門家) 日本・雲南聯説協会



という5つの活動を中心に行う予定です。これらの活動は当協会が単独で行うものではなく、中国側政府機関、現地NGO、公衆衛生の専門家、学校と村民と一緒に進めていくものです。日本側から与えるのではなく、地元の先生や指導者層が自らプロジェクトを進めていくよう、協会は背中を押す役目となります。

初年度はモデル校として協会支援第4、6、11校目の小学校の地域で実施し、その後は、学校建設事業と平行して全ての支援小学校で実施していく予定です。



健康や保健衛生に一番関心があるのは家庭を守るお母さんたち
ワークショップでは多くの意見が出て、大いに盛り上がりいました



あなたも子供のサポーターになりませんか？

少数民族女子に教育のチャンスを！

25の小さな夢基金 手紙を通じた心の交流

プロジェクトの背景と経緯

中国雲南省の少数民族地域には、貧困から教育を受けられない子供たちが大勢います。特に女の子は「女性は家で働くもの」という慣習から、学校に通えない女の子が大勢います。

当協会は、少数民族の女の子の受け入れ支援を行っている雲南省昆明市の学校「昆明女子中学校（中高一貫校）」と協力し、同校「春蕾高校生クラス」に通う女子生徒を対象とした里親学費支援『25の小さな夢基金』を2008年からはじめました。

少数民族の女の子にも、等しく就学の機会を与えたい。才能を育み、やがては大きく成長し、日中友好の架け橋となってほしい。当協会はそう願っています。

今後、「50の小学校プロジェクト」により開校を迎えた小学校に通う児童（男女）も対象にしていき、保健衛生のプロジェクトと同様に、フォローアップ事業の一環として続けていく予定です。

基金のしくみ



「25の小さな夢基金」サポート会員からの支援金の内50%が、支援対象となる女子生徒の直接の就学費にあてられます。20%は、「ごども未来基金」として、支援対象の子供の大学進学のための資金や生活費など、必要に応じて大切に貯蓄されます。残りの30%は当基金の運営費として使われるほか、協会全体の入会費・通信費・印刷費等の諸経費として使われます。

サポート登録後は、子供たちとの交流が始まります。サポート者は、いつでも子供たちにお手紙や、小さなプレゼントを贈ることができます。子供たちからは、毎年2回（予定）のお手紙が送られるほか、学校から、学年末年の成績報告書が7月頃（年1回）送られる予定です。また6月の3年生卒業式では、「卒業式参観の旅」を実施予定です。

最近の活動報告

2008年4月19日、初鹿野理事長とたまたまわロータリークラブの三木秀隆会長はじめとする8名の会員一行が、「25の小さな夢基金」の支援先である昆明女子中学校を訪問し、第2回目となる支援金贈呈式を行いました。おかげさまで、現在サポートを受けている生徒は、今回新たに支援が決定した子供も入り、37名となりました。

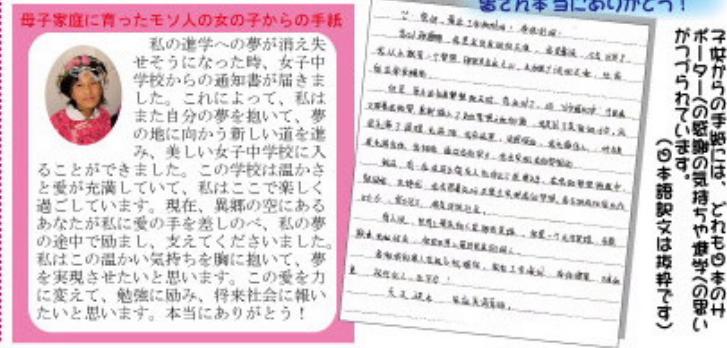
贈呈式では、新たに支援が決定した生徒に支援金を渡し、各生徒の自己紹介を一人ひとり行いました。

式の途中では、日本のサポートからの手紙を直接翻訳して手渡す場面もありました。サポートからの心のこもった手紙が読まれると、一堂内容に心を打たれていきました。生徒自身も嬉しそうに何度も何度もサポートからの手紙や写真を見ていました。

その後、タイ族の生徒による、タイ族伝統楽器ひょうたん笛（葫芦系・フルス）が披露されると、皆さんその音色に聞き入っていました。今回、生徒からサポートの方々への手紙も預かってきました。どの手紙にも、日本のサポートからの支援のお陰で学業が続けられることへの感謝や、学校で先生やクラスメートと楽しく充実した生活を送っていること、一度雲南に来てほしいという学生たちの願いなどが書かれていて、胸にじんとくるものがあります。この出会いをきっかけに、日本語を勉強したい、日本文化について知りたい、研修で日本に留学したいという生徒も出てきました。

今後も、学生が自分たちの夢を実現できるよう、応援を続けていきます。皆さまの温かいサポート登録、お待ちしております！

生徒数37名 サポート者数30名
皆さんは本当にありがとうございます！



が「子供たちの手紙には、どれも日本の思いがこめていました。日本語訳文は複数です。

第二回 初鹿野恵蘭写真展 中国雲南省大自然とともに生きる少数民族の子供たち

2008年4月15日(火)～20日(日)、東京・恵比寿にある「恵比寿麦酒記念館」にて、中華人民共和国駐日本大使館領事部の後援、サッポロホールディングス株式会社の協賛により、当協会主催にて「第二回 中国雲南省大自然とともに生きる少数民族の子供たち～初鹿野恵蘭写真展」を開催しました。

今回は、カラー写真に加え、初めて白黒写真も出展し、合わせて26点の作品を展示了しました。場所柄のお陰でしょうか、6日間で何と1400人余の方が御来場くださり、大盛況のうちに終了することができました。

初日のオープニングセレモニーでは、中華人民共和国駐日本大使館領事部の于淑媛総領事、麦酒記念館名誉館長岩間辰志協会顧問、その他多数の方々からご祝辞をいただきました。皆さん、雲南省や協会にひとかたならぬ愛情をお持ちの方ばかりで、協会の活動に熱い応援のお言葉を下さいました。

その後、ギャラリーに場を移し、技術評論社代表取締役社長・片岡巖協会顧問のご挨拶と乾杯のご発声がありました。ご来賓の皆さまは、麦酒記念館(サッポロビール)ご提供のビールや清涼飲料水を手に、とても和やかな雰囲気で写真を鑑賞されていました。

今回の写真展では、一時間以上かけてみてくださった方、一枚一枚イスに座りながら見てくださった方もいて感激しました。

前回に続いて、子どもたちはにかんだ表情やしかめつらの顔など、愛らしい姿が好評でした。彼らの日常生活や自然を写した写真に、「日本の原風景のよう」「小さい頃を思い出した」などの声も聞かれました。白黒写真も大変評判がよく、特に、独龍族の100歳のおばあさんの写真は、「顔に刻まれた深い皺が彼女の人生を雄弁に物語り、「心を搔きさぶられるものがあった」との感想もたくさんいただきました。

また、来場者の中には、観光で来た外国の方も大勢いらっしゃいました。初めはどう話しかけてよいか会場スタッフも戸惑いましたが、片言の外国語で一生懸命説明している



海外からのお客さんもたくさんいらっしゃいました



オープニングセレブレーションにて 右から初鹿野理事長、中国大使館李輝一等書記官、片岡巖総領事、岩間辰志協会顧問、歌川令三会員

うちにこつをつかんだのでしょうか？ 中には募金箱に寄付して下さる方も結構いらして、とても嬉しくなりました。感謝！

写真を通して、私達の支援先である雲南省の素朴な少数民族の子どもたちの現状を知ってもらいたい、という写真展にこめた思いは、たくさんのご来場者にも伝わったのではないでしょうか？

今回の写真展は、多数の方にご来場いただき、大成功といつてもよいと思いますが、幾つかの課題も見えてきました。写真展は、写真を見ていただくことはもちろんですが、一人でも多くの方に協会のことを知ってもらい、協力者になっていただくことが本来の目的です。そのためには、更なる工夫を凝らしていくことが必要だと感じました。

今回もたくさんの会員やボランティア、その他関係者の方から、お花や差し入れ、ご寄付などをいただきました。温かいお心遣いに一同ともて励まされました。いつも本当にありがとうございます。また、事前準備や写真展開催中もたくさんのボランティアの皆さんにお手伝いしていただきました。中には、名古屋支部の近藤鉄一支部長のように、わざわざ愛知県から一週間泊りがけで来てくださった方もいます。本当に頭が下がります。皆さんのお力によって写真展を成功させることができたのだと思います。本当にありがとうございます。

【後援】中華人民共和国駐日本大使館領事部【協賛】サッポロホールディングス株式会社
【企画】鈴木肇【事前準備ボランティア(敬称略・順不同)】安達武史、鈴木肇、片岡巖、加藤久、狩野信子、遠間奈津子、水口俊裕、岡隆史、山本忠明、山崎玲子
【当日ボランティア(敬称略・順不同)】糸山敏和、小野保、小川輝夫、鈴木肇、安達武史、狩野信子、小林光洋、山口了、中村有里子、吉村麻希、近藤鉄一、安達武史、寺内明子、佐藤啓、並木明、河野一好、中西靖子、松井優里、鎌田寛司、J.R.総連皆様、J.R.東海労皆様
【協力】株式会社技術評論社／昭和新聞フロセス株式会社(印刷協力)
【オープニングパーティご挨拶】片岡巖様(中華人民共和国駐日本大使館・総領事)、李輝様(中華人民共和国駐日本大使館・公使)、岩間辰志様(サッポロホールディングス株式会社名誉顧問・協会顧問)、都筑信様(元埼玉県副知事)、安仁屋政武様(雲南懇親会・会長)



白黒の写真は「歴史を語る」というタイトル。この独龍族のおばあちゃんはなんと100歳だそう！



雑販版コーナーでは刺繍コースターが大人気！



会場には、連日大勢のお客さんが詰めかけました



会場となった、春の日が心地よい恵比寿ガーデンプレイス



新たなる発展に向けて 第8回定期総会

2008年6月28日(土)、東京都八王子学園都市センターにて、第8回定期総会が大盛況のうちに終了いたしました。出席者は35名、委任状数149通でした。

梅雨の合間に曇りがちなお天気にも関わらず、当日は、協会顧問、協会会員、会員関係者の皆さま、総勢35名の方々が集まって下さいました。開会の挨拶として、唐澤理事より、新規事業の100万の手洗いプロジェクトの説明と衛生プロジェクトに関する提案などについてお話をありました。また、11月に行なわれる、雲南省少数民族の子どもたち自身が撮影した写真による写真展「小さなカメラマン」の紹介があり、このイベントを高く評価していただきました。

その後、初鹿野理事長と東京本部スタッフの七田から、パワーポイントを使用して、昨年度の協会の主だった活動などをご紹介しました。普段、会報誌「彩雲の南」やwebサイトで写真を見る機会はあっても、動画で見るとまた感動も一入のようでした。昨年11月の16校目小学校の開校式ビデオ上映では、山道の厳しさにため息が。「こんな美しいところに行くのは怖いわ～！」という実感のこもった声や、疲れきった参加者の表情に笑いがこぼれたりしていました。今回の総会の特徴として、古くからの会員だけ



小さなカメラマン 写真展

2008年11月5(水)～9(日)
恵比寿麦酒記念館内ギャラリー
協賛：サッポロホールディングス株式会社

「今日から僕がカメラマンだよ！」

2007年、協会の支援により開校を迎えた小学校の子供たちにインスタントカメラを手渡し、カメラマンとなってもらい、自由に写真を撮影してもらう「小さなカメラマン」プロジェクトが始まりました。友達の顔、飼っている牛や鳥、学校の様子…客人として我々が撮影するのとは違う、普段着の日常生活や住民たちの素顔、子どもたちの夢や希望などが写真の中には表現されました。

今年11月5日(水)～9日(日)、いよいよ小さなカメラマン写真展が、東京・恵比寿麦酒記念館内ギャラリーにて開かれることが決定しました。既成の概念にとらわれない子どもの感性で撮影した写真は、私たちに感動を与えてくれることと思います。ぜひお越しください！この写真展は今後、日本のフレンドシップ交流校にも巡回展示していきたいと考えています。

なく、初めての参加の方もたくさんみえたことが挙げられます。また、議事の中ではこれまでになく活発なご意見や鋭いご質問が飛びかっていました。どれも貴重なご意見やご提案で、会員の皆さんが協会の活動について真摯に考えてくださっているということに、協会としても大変嬉しく素晴らしいことだと感激しております。

これからも会員の皆さんに対して常に誠実に、また迅速に情報を届けしながら活動を続けていくことを改めて決意した次第です。活発な議論が交わされた総会も、終わりの時間が近づき、北原茂実理事より閉会の挨拶がありました。協会の今後の活動をより充実させていくこと、特に現地の小学校のハード面だけでなく、ソフト面の充実させていくこと、また、四川大地震で多くの学校が崩壊したことを教訓に、今後協会の小学校建設事業も、安全性について更なる監査をする必要性があることなどのご提言をいただきました。

今年は総会の資料をお届けするのに時間がかかり、どちらかといふとお問い合わせるか心配していましたが、お陰さまで昨年以上の出席者数となり、協会一同ほっと安堵。協会の活動にいつも関心を向けてくださっている会員、支援者の皆さま、本当にありがとうございました！



総会後の懇親会会場にて

【総会ご出席の皆様(敬称略・順不同)】
初鹿野恵蘭理事長、遠藤功理事、中村有里子理事(司会)、大葛修平理事、北原茂実理事、初鹿野薦理事、桂正徳理事、唐澤英安理事、佃純継監事、村松健児監事、東郷浩顧問、小山久子顧問(議長)、片岡巖顧問、根岸恒次顧問、寺内明子(大宮支部長)、近藤鉄一(名古屋支部長)、初鹿野道子、新木元治、高山信彦、糸仙二郎、佐藤茂、丸藤茂也、平田栄一、藤田文彦、安達武史、近藤和馬、高山千代美、滝川明良、須藤英人、狩野千尋、田村ヒロシ、佐藤真治、大塚浩、中村由輝、東京本部(七田恵)、
【当日ボランティア協力】
須藤英人・初鹿野道子(カメラ撮影)、中村由輝、狩野千尋、初鹿野恵蘭

協会トップニュース

「子供たちの夢をかたちに」 ～ロータリークラブ定例会で講演～

2008年2月13日 文化交流 東京



協会の活動紹介では熱がります
東京たまたまがわロータリークラブで開催された2月の定例会に、初鹿野忠蔵理事長と東京本部七田が出席し、協会の活動紹介及び活動への支援要請のため、講演を行ないました。当日は40人ほどのロータリークラブの方々が出席する中、パワー

東京たまたまがわロータリークラブで開催された2月の定例会に、初鹿野忠蔵理事長と東京本部七田が出席し、協会の活動紹介及び活動への支援要請のため、講演を行ないました。当日は40人ほどのロータリークラブの方々が出席する中、パワー

雲南省の世界遺産にも登録された美しい自然や景観、文化、少数民族の子供たちの写真などを交え、現地の子供たちが置かれている教育環境の窮状を訴えました。たまたまがわロータリークラブの三木秀隆会長は、今年の1月に雲南省の貧困地域の学校視察に赴かれ、その際の写真が披露されると、メンバーから歓声があがっていました。この講演後の4月にも同クラブのメンバーが雲南を訪問、視察しており、今後協力し合う形で支援をしていきたいと考えています。

少数民族・独龍族の文化風習を紹介 日本民俗経済学会にて講演

2008年3月8日 文化交流 東京



東京・渋谷の國學院大学にて開催された「日本民俗経済学会」に、初鹿野理事長が講師として招かれ、雲南省の少数民族・独龍族の文化風習についての話をしました。同会の理事長・菅野英機先生（上武大学教授）は当協会の会員で、今回の講演の機会もそのご縁からでした。

当日は、昨年完成した支援第16校目巴坡小学校の写真を中心とした写真のスライドを使い、そこに生活する独龍族の古くから変わらない習慣や、住宅事情などをお話ししました。参加者の方々からは、彼らの宗教概念などに関する質問が出たり、協会の支援活動に対する質問が出たりと、様々な反応をいただきました。このような講演の機会があれば今後も積極的に参加し、一人でも多くの人に雲南省の現状を伝えていきたいと考えています。

血行不順は万病のもと。
このような方にお勧めします。

- 健康維持したい方
- 免疫力を高めたい方
- 脚さわやかに目覚めたい方
- 美容が気になる方
- 体力増強したい方

純粹田七

日本ケイエム交易株式会社
NPO法人日本雲南聯誼協会を応援しています

ご注文・電話 042-659-2997

雲南の子供たちに届け！ 文房具等、物品寄附の紹介

会報の印刷でも大きなご協力をいただいている、法人会員の日経印刷株式会社から、とても嬉しいプレゼントが届きました！右の写真のノートは、同社・山本富造専務の発案、協会のデザインにより制作され、500冊が無償で当協会に提供されました。ノートの裏表紙には、「ありがとう」など簡単な日本語会話が紹介されていて、子供たちに日本のことを持つてもらいたい、という思いがこめられています。今後日経印刷では、当協会が開校式で雲南省を訪れるたびに新しいノートを増刷してくださること、素晴らしいアイデアのご支援に感謝の気持ちでいっぱいです。このほかにも、開校式の旅の参加者の方や、会員の方からも、文房具などの寄附をいただいています。ここでご紹介しきれませんが、皆様に改めて感謝いたします。これら寄附品の配布（2008年1月 武定）品は引き続き雲南の子供たちに届けていきます。

雲南省は中国最西南部に位置し、ミャンマー、ラオス、ベトナムと国境を接しています。面積は約39万km²（日本とはほぼ同面積）、人口約4300万人です。土地の94%が山地で、海拔760mの河口から6740mの梅里雪山という高山も存在する特色豊かな地域。世界遺産登録地も多く、最近では観光面からの注目を浴びています。



初鹿野理事長、活動を語る NHK地球ラジオに出演しました

2008年6月22日 交流活動 東京

「地球ラジオ」は、ラジオを通じて世界各地の「今」の情報をお伝えするNHKラジオの人気番組です。海外にいる日本人や、日本で暮らす外国出身の人などの話を通じて、様々な話題を提供しています。

2008年6月22日の放送では、「奮闘バング」のコーナーに当協会の初鹿野理事長が出演し、協会の活動をはじめたきっかけや活動への思いを熱く語りました。初めてのラジオ出演に「とても緊張した！」と感想をもらした初鹿野理事長。

放送は10分ほどの時間でしたが、8年間に渡る協会の活動と活動にかける熱い想いを、分かりやすく凝縮して伝えられたのではないでしょうか。放送後には会員のみなさんがたくさん感想を寄せてくださり、改めて公共電波の影響力の大きさを感じました。

日本商工会議所 大メコン圏ビジネス説明会 ～雲南省に見る未来の可能性～

2008年2月20日 文化交流 東京



の産業
雲南省
様顧問の
と魅了
力ビジネス
説明会片岡
会場

2008年2月20日、当協会によるバックアップのもと、日本商工会議所南北経済巡回視察団一行が雲南省を訪問し、昆明空港経済区管理委員会にて、昆明市の王道興副市长と会談しました。

南北経済巡回視察団は、雲南省をはじめとする、ベトナム、カンボジア、ラオス、タイ、ミャンマーのメコン圏6カ国の経済開発の可能性を探るため、日本商工会議所により結成された視察団です。

同月15日には、その事前説明会として、東京商工会議所にて「大メコン圏ビジネス研究会」が開かれ、当協会の片岡巖齋（株式会社技術評論社 代表取締役社長）が講師として招かれました。片岡巖齋の話の中でも、特に2010年に完成予定の「新昆明市」に話が及ぶと、集まつた視察団の方々は真剣に話に聞き入った様子でした。説明会には、初鹿野理事長、岩間辰志郎、初鹿野薰理事も参加し、新昆明の完成とともに、新たな可能性を見せ始めた雲南省の今後を見守りました。

そして2月20日、雲南省を訪れた視察団一行が出迎えた王副市长は、昆明新空港の建設と、今後の経済発展の見通し、そして新昆明の外資融資環境について詳しく説明をしました。視察団一行は、昆明が東南アジアの物流の要所となることを認識し、今後の昆明にますますの期待を寄せたようです。会議は友好的な雰囲気の中で閉幕となり、その後、王副市长は昆明ホテルで視察団への歓迎会を開き、日中友好の大きな種を実らせました。今後も当協会は、日本商工会議所の雲南省への投資、企業進出を全力で応援してゆきます。

（報告：雲南支部・林輝）

※新昆明…現在、雲南省は人口増加、企業発展に伴う交通問題を解決するため、2010年までに昆明市呈贡区に「新昆明」を建設し、政府の中枢機関、学校、病院、4車線を有する新空港を移設する計画。

大好評だった民族衣装試着 さいたま市国際友好フェア

2008年5月3、4日 文化交流 埼玉

2008年5月3日・4日、さいたま市民の森貝沼グリーンセンターで「花と緑の祭典～国際友好フェア～」が開催され、大宮支部がブースを出展しました。寺内明子支部長を中心に準備を進め、ブース出展も今年で3年目。

1日目はあいにくの雨模様でしたが、2日目は良いお天気に恵まれ、会場はたくさんの人が溢れかえりました。今回人気だったのが、「民族衣装試着体験コーナー」です。これは、一人100円で、雲南省の綺麗な民族衣装を試着できるというものでした。たくさんの方が「一度民族衣装を着てみたい！」と来てくださいって、ボランティアスタッフも着付けに大忙でした。民族衣装試着はとてもいいアイディアだったのではないかでしょうか。

このような催しを通して、今後さらに多くの人に雲南省のことを知ってもらうよう頑張っていきたいと思います。

【当日ボランティアの方々】（順不同敬称略）小野保、高橋福子、市川由美子、鳥羽清弘、川口邦夫、青柳茂樹、松尾ユイ、寺内明子（大宮支部長）【写真提供】小野保



雲南・大理の藍染を大胆に飾ったブース

ご協力ください

NPO法人日本・雲南聯誼協会では、中国雲南省の貧困少数民族への小学校建設・フォローアップ支援を柱とした活動をしています。当協会パンフレットや会報バックナンバー、入会のお申込みについて協会東京本部（本誌表紙頁の上部をご参照ください）までお気軽にお問い合わせください。

募金の振込先は以下の口座となります。郵便振替口座は、専用払込票をご用意しておりますのでご入用の方は東京本部までご連絡ください。皆様からの暖かいご支援、ご協力をお待ちしております。

日本雲南聯誼協会（にいわんじんりょうけい）お問い合わせ
■三菱東京UFJ銀行 目黒駅前支店 普通 1300380
■郵便振替口座番号 00100-8-610935